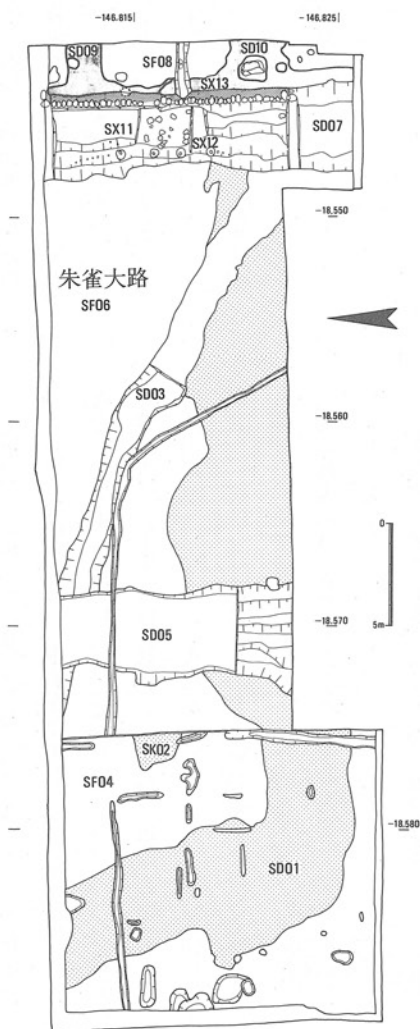




(奈良・桜井)



発掘区全体図

奈良・平城京跡

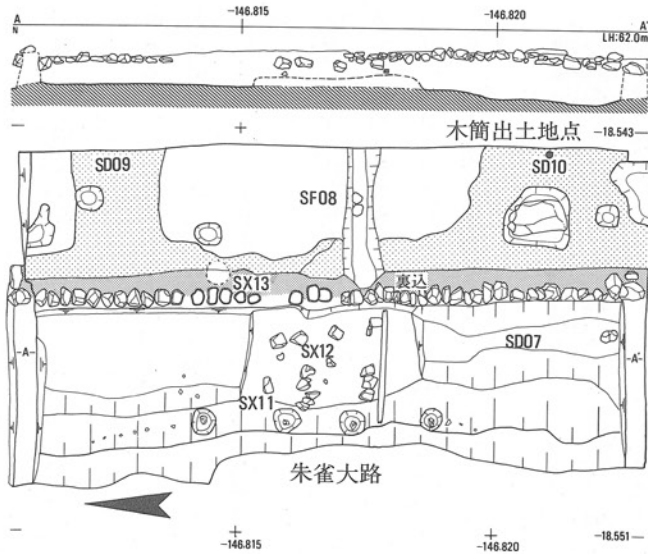
- 1 所在地 奈良市四条大路三丁目
- 2 調査期間 一九九五年(平7) 四月～六月
- 3 発掘機関 奈良市教育委員会・奈良市埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 秋山成人
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代・七世紀～九世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は分譲住宅建設に伴う事前発掘調査である。調査地は平城京の朱雀大路と四条条間路の交差点に相当する。調査の結果、朱雀大路及びその東側溝、四条条間路及びその南北両側溝、朱雀大路と四条条間路の交差点で橋の存在を確認した。また朱雀大路路面上にて下ッ道とその東側溝、北から東へL字状に曲がる弥生時代前期末の溝、北西から南東へ斜行する弥生時代後期の溝を検出した。

朱雀大路SF0六は路面幅約四一・五m分を検出した。路面舗装などは認められない。朱雀大路東側溝SD0七は堆積状況から、大きく二時期に分かれる。当初の溝SD0七Aは護岸施設をもたず、幅七・一五m以上、検出面からの深さ〇・九五mを測る。これを改

修した溝SD〇七Bは、溝東肩に河原石を一段分一列に並べた護岸施設SX一三をもち、幅二・二m以上、検出面からの深さ〇・五mを測る。遺物は当初の溝SD〇七Aから奈良・平安時代の土器、奈良時代の瓦・人形・平鉢などの木製品が出土し、改修後の溝SD〇七Bから奈良・平安時代の土器・瓦が出土している。

四条条間路SF〇八では、北側溝SD〇九（幅三・〇m、検出面か

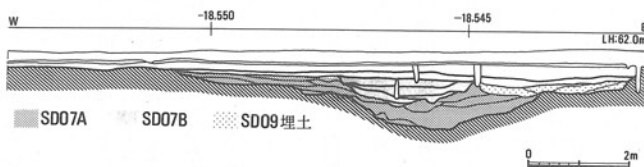


朱雀大路東側溝平面・立面図

らの深さ〇・六m）と南側溝SD一〇（幅二・六m、検出面からの深さ〇・五m）を検出した。木簡が出土した南側溝SD一〇は素掘りの溝で、断面逆台形状に二段に掘られている。土層堆積状況は上層から暗灰色砂質土・灰白色砂質土・淡茶灰色砂・淡黄灰色砂（以上改修時の埋土）、以下、灰褐色砂・淡黄灰色砂・淡黄褐色砂・褐色砂質土・黄灰色粗砂と続き、最下層の暗灰色粘質土に至る。木簡はこのうちの最下層から出土した。位置は朱雀大路東側溝SD〇七Aとの交差点より約三・五m東にあたる。

朱雀大路と四条条間路の交差点で橋の遺構SX一一・一二を検出した。SX一一は当初の朱雀大路東側溝の東西両肩で検出した橋脚である。西肩では溝と平行に柱列三間分（一・六―一・三―一・五m）と、柱列の両側に、護岸の杭列を検出した。東肩では西側の柱列に対応する柱穴一つを検出した。SX一二は朱雀大路東側溝改修時の護岸施設SX一三にとりつく、自然石を集積して造られた陸橋で、この際、四条条間路南北両側溝は埋められ、整地される。

下ッ道SF〇四は路面幅約一六m分を確認



朱雀大路東側溝堆積土層図

した。下ツ道東側溝SD〇五は長さ一一・三m分を検出した。堆積状況から溝は改修されたことがわかる。当初の溝は幅二・八五m以上、検出面からの深さ一・〇mである。これがある程度埋まった後掘り直され、幅三・一五m以上、検出面からの深さ一・二m以上となる。埋土中から遺物は出土しなかった。

今まで、東西の道路と朱雀大路との交差点部分で橋の存在が確認されたことがなく、今回、架橋の存在を確認したことによって条坊復原に新たな資料を得ることができた。さらに、下ツ道東側溝を検出したことにより、部分的であるが、平城京造営以前の状況を知ることができた。

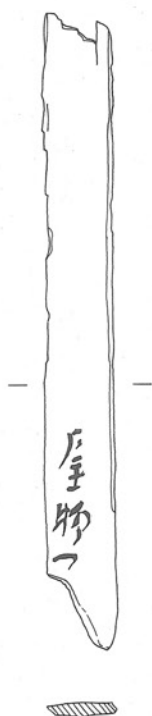
8 木簡の釈文・内容

(1)

戸主物マ×

(140)×(15)×3 081

形状は上端及び文字面の左側と右側の一部が割れて欠損し、下端は炭化し、表裏は二次的に削られている。墨書は片面左側下方に二行の文字が残る。左半の文字は「戸主物マ」と判読できる。また右



半にも文字痕跡が認められるが判読できない。墨書は「物マ」と戸主名が記されているが、かなり欠損しており、二次的な削りも加えられているため、付札木簡であるか否かは不明である。

9 関係文献

奈良市教育委員会『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書 平成七年度』(一九九六年)

(秋山成人)